

も、ひたひさしあはせて、御きそくよげに、うちさ、やきたはぶれかはしなどするも、かるくし
くあなづらはしきことにて候、さやうの御わきまへは、さりととも御心やすく、おもひまいらせ
て候へども、わかきほどの心は、おもふにつけて、人のもてなしによることも候へば、なをうし
めたきやうにて、これまで申候、また御心むけは、さる事にて、はかなきわざにもとりふれさせ
まひ候はんずる物ごとによしある、さまにとおぼしめし候へ、さすがに上のしなのえらびにな
りぬる人のすたれうたてあることは候まじけれども、おなじこともあるにまかせて、こゝろを
そへぬやうに候へば、ひさうなきものにて候、そのみすのまへは、くるしきやうにそのわたりは、
心にく、など、心ときめさせらるゝやうに候へば、人にも所をかれはぢらるゝ、事にて候ぞかし、
略○中

一本云
きの内待どのへり

雲をはるかにへだつるかたより

〔見聞軍抄^七〕深澤村大佛一見の事附平時行事

尊氏公天龍寺を建立し、夢窓國師へ歸依し給ふによつて、をしへの狀にいはいはく、

一 夢窓國師尊氏將軍へ拾三箇條教訓狀之事

一 慈悲正直思案堪忍和合爲城油斷爲敵事

一 尊崇佛神三寶修造寺社可守家運事

一 隨錄施物知人間欲可恐天道事

一 不亂主君父母禮義可存忠孝之志事

一 學文書忍賢仁可入忠言正路事

一 專合戰軍法以夜繼日弓馬道可嗜事

一 不隔貴賤上下可愛衆生之輩事